

主婦連合会とは

主婦連合会（主婦連）は戦後混乱期の1948年、主婦たちが配給の不良マッチを持ち寄り、役人や業者に優良品との取り替えと品質改善を約束させた「不良マッチ退治主婦大会」をきっかけとして発足した。主婦達の団結を呼びかけたのは初代会長奥むめおである。以降、主婦連は平和、物価、税金、食品、環境など幅広い課題を身近な消費者問題として提起し、「台所の声を政治へ」というスローガンの下、消費者の意見を政策に反映させる取組を展開している。

■1950～1960年代の主な取組

主婦連の日用品試験室で「たくあん」から有毒色素オーラミンを検出し、その排除へと導いた「オーラミン追放運動」、ニセ牛缶事件をきっかけに始まった偽装表示への監視活動、ユリア樹脂製食器からホルマリンを検出したことによるプラスチック食器への問題提起などがあり、これらは衛生行政の強化や景表法制定へと結実した。

■消費者相談窓口設置の先駆けとして

主婦連は1961年、全国35カ所に苦情相談窓口を設置し、商品、サービスなどについての相談を受け付けた。その結果をもとに行政・企業に改善を求めると同時に、相談窓口設置の必要性を訴えた。それが1968年、消費者保護基本法に盛り込まれ、各地の消費生活センターや企業のお客さま相談窓口設置へとつながった。

■1970～1990年代の主な取組

1971年、「果実飲料等の表示に関する公正競争規約」に不服申立を行い、73年に消費者の権利訴訟と位置づけられるジュース裁判を提起。また74年にはヤミカルテル灯油裁判を鶴岡と神奈川の生協と共に提起した。カラーテレビの不買運動、大気汚染測定運動も当時の代表的な運動である。その他、円高差益還元を求めての公共料金値上げ反対、消費税反対、PL法や情報公開法制定運動などに取組んだ。

■消費者庁創設は長年の「夢」

初代会長奥むめおは、参議院議員を務めていた1959年、国会質問の中で、「国民生活安定のために企画し、強力に施策を推進する総合的な役所」の新設を訴えた。この夢は21世紀になって一気に実現へと動き出す。消費者庁の設置を求める運動には主婦連も積極的に参加し、奥むめおの訴えからちょうど50年後の2009年、消費者庁設置が実現した。

■近年の主な取組

弁護士費用敗訴者負担制度反対運動、リコール社告のJIS規格化、消費者事故の調査機関創設運動、TPP反対、消費税増税反対、消費者目線での食品表示一元化、IT関連の消費者問題など、活動分野は一層の広がりを見せている。また、ISOなどの国際規格策定に消費者意見を反映させる取組にも力を注いでいる。

*団体会員 全国21団体

*定期刊行物『主婦連たより』（毎月1回発行）

事務局：102-0085 東京都千代田区六番町15 主婦会館3F

Tel: 03-3265-8121 ■ Fax: 03-3221-7864

E-mail: info@shufuren.net

URL: <http://www.shufuren.net>